地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

Ⅰ．理念に基づく運営
　１．理念の共有
　２．地域との支えあい
　３．理念を実践するための制度の理解と活用
　４．理念を実践するための体制
　５．人材の育成と支援

Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援
　１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
　２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
　１．一人ひとりの把握
　２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
　３．多機能性を生かした柔軟な支援
　４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
　１．その人らしい暮らしの支援
　　（1）　一人ひとりの尊重
　　（2）　その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
　　（3）　その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
　　（4）　安心と安全を支える支援
　　（5）　その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
　２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
　　（1）　居心地のよい環境づくり
　　（2）　本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

Ⅴ．サービスの成果

※記入方法
　○管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
　○取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
　○サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について
　○評価項目は、１００項目です。

事業所名　グループホーム　慎　太　郎

ユニット名　慎太郎　Ⅰ・Ⅱ（2ユニット共通）

自己評価実施年月日　平成　１９　年　７　月　１５　日

記録者氏名　竹　内　美　紀

記録年月日　平成　１９　年　７　月　１５　日

（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた土地で地域住民との交流をもちながら、少人数で落ち着いた雰囲気で生活し、利用者の生活意欲を引き出しながら、自己選択、自己決定ができるよう支援することを理念としている。	○	認知症理解についての研修会等、もっと地域社会の中に参画できる施設事業を実施していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員相互の共通認識がもてるように、管理者と職員が共に理念を確認し合っている。	○	職員研修などにより、共通認識をもって対応できるように努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所の時家族には理念を説明しており、また地域住民に対しては来所の折に施設の役割について理解を求めるなど話し合いの場をもつようにしている。	○	家族会を開催し意見を求めたり、交流を図る中でより理解を深めていく。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣地の畑の持ち主と畑作業について話を聞いたり花をもらったり気軽に交流している。	○	近くの知人がよく遊びに来ているのでお茶で接待したりして、これからも訪れやすい雰囲気で迎えるようにする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の夏祭り、保育所の夕涼み会などに誘われたりして、各団体の方と交流している。	○	これからも地域の方々との交流を大切にして、招待されたら出かけていくようにする。そして気やすく立ち寄ってもらえるようにしていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏祭り等を実施し、施設生活を紹介したり、施設見学の折に、介護についての質問を受けたり、介護用品についての質問に対応したりしている。 又、地域で開かれた、認知症を知ろうと言う集会に参加したりして認知症の啓発運動も行っている。	○	施設見学の機会を通して、ボランティア的研修をしたり、認知症について地域住民の理解を深めていきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価することにより、自らの介護体制を見直し介護保険の原点に立って反省して改善したり、良い点は自信をもって推進したりして、その意義を職員が理解できるように話しあっている。	○	改善点についてはみんなでその方法を検討していくようにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案いただいた点についてはすぐ実行している。	○	今後も多方面の方からの意見をいただき、地域との連携の中で運営していくように心がけていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いろいろな研修や事務連絡の機会を通じて役場を訪問し、事業所の実情を報告したり、相談したりしている。	○	これからも、町関係者との交流を図り、共にサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在権利擁護事業を利用している人がいるため、その制度をよく理解し、対応できるようにしている。	○	成年後見制度についての研修を行い、必要な方には対応できるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の人権を尊重する介護を行い、何が拘束に当たり、どういう事が虐待につながるかを考えて行動するように話し合っている。	○	高齢者虐待防止関連法を学ぶ。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際はわかりやすく説明し、思い違いや誤解が生じやすい項目に関しては説明している。家族と連絡を取り合って信頼関係の樹立に努め、特に金銭関係や緊急時の対応については充分に説明している。	○	契約内容について利用者や家族の理解が十分に得られるようにしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事に関する希望を聞いたり、語らなくてもその気持ちをくみ取るように努めている。また玄関に意見箱を設置して広く意見を聞くようにしている。	○	苦情処理検討会や第三者委員の意見を聞きながら運営をすすめていくようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の健康状態に変化が生じた時はすぐ家族に連絡したり、来所した時、暮らしぶりを報告したりしている。面会に来れない家族には手紙に写真を添えて送っている。	○	家族との連携が密になり、よりよい介護体制がつくれるように努めていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置し、意見を反映するシステムをつくっている。また家族会を開き交流を図りながら意見を出してもらえるようにしている。家族が来所の折には職員から声をかけ話しやすい雰囲気をつくるようにしている。	○	第三者委員よりの意見を尊重し介護に反映させるようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議や職員対話の機会をもち、管理者は職員から意見を聞くようにしている。	○	今後も定期的に意見を聞く機会を設定していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	２４時間体制で利用者の生活をフォローできるように職員を配置し、急な身体状況の変化にも対応できるようにしている。	○	これからも、職員の急病や利用者ニーズに応じた職員のローテーションが無理なくできるように整備しておきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経験豊かな職員を配置しなじみの関係を作ると共に、できるだけ職員の異動を少なくし、ユニットの固定により安定した人間関係を作るように配慮している。	○	職員の異動や離職があった場合、利用者の生活のリズムを乱さないように配慮し、引き継ぎを充分に行うようにしたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や資格取得の推奨をするなど研修の機会を与えている。	○	施設内の研修の時間をもっと確保していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県グループホーム協会に加入して情報を得たり、法人グループ内での研修会に参加したり相互訪問や連絡を通して資質の向上を図っている。	○	これからも研修の機会は多くもちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者との意見交換の機会を設定して現場の声を聞くようにしており、また他施設職員との親睦の時間をもてるようにしている。	○	小集団ならではの仲間意識の中で管理者含め職員全員が常に明るく会話を通して親睦をはかっているのでこれからもその和を大切にしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得にむけて職場内で研修にでやすいような体制をつくり、公休で参加できるように勤務を調整したり支援している。また健康に留意して働けるように定期健康診断等を実施している。	○	これからも就業規則を守り、職員の資質に応じた評価を行い、職員が向上心をもって働けるようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅へ事前訪問を行い、家族だけでなく本人からも心境をじっくり聞く時間をもっている。	○	利用者本人が困っていることや不安に思っていることを時間をかけてゆっくり聞いて、不安を解消できるように話したり一緒に考えたりして、職員自身が受け止める姿勢をみせて信頼を得るようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の折に今までの生活歴、苦労したことなどを話してもらい、それによってその人や家族を理解していくようにしている。	○	利用者本人だけでなく、家族の抱える悩みや葛藤についても理解し、信頼を得るように努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今その本人や家族に何が必要か何が生活の障害になっているのかを話の中から聞き取り、見極めている。早急な対応が必要な時は町や地域のサービス事業所や地域包括支援センターとの連携の中で可能な限りの柔軟な対応をしている。	○	地域のネットワークを通して状況を判断し、できるだけ早急な対応ができるように日頃から連携を深めておきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず事前に職員が自宅を訪問したり、施設を見学してもらったりしている。また隣のデイサービスを利用したり、遊びにきてもらい、なじみの関係をつくって施設での生活へスムーズに適応できるようにしている。	○	行事の機会などに施設を解放し施設での生活を知ってもらったり、訪れやすい雰囲気をつくっていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごし、喜びや楽しみを共に共感しながら、相手を理解し合い尊重しあってともに暮らしていくという関係をつくっている。畑作業や洗濯たたみなど共に家族の一員としての役割をもつような関係の樹立に努めている。	○	これからも経験豊かな利用者から教えられることは多くあるので職員が介護するだけの関係でなく共に歩む関係を作っていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に体調の事や心理的な事を伝えたり、今までの経緯を教えてもらったりしながら家族と共に利用者を支援していくという協力関係をつくっている。	○	家族が来所時、一緒に介護について考えていきましょうという気持ちを伝え、会話の機会を多くもつようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との絆を深めてもらえるように家族関係を取りもったり、施設行事に一緒に参加してもらったりしている。	○	家族会の機会を通してよりよい関係が継続できるように企画していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人を招いてお茶を楽しんだり昔からの行きつけの美容院へ通ったりして、今までの生活を大切にしながら継続的に地域交流が図れるようにしている。	○	知人の来所を待つ場合が多いが利用者の方から積極的に外出していくことができる体制を整えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話や趣味の合う利用者同士が仲間意識をもって助け合ったり支え合ったりできるように配慮している。お互いの居室を訪ね合って語り合ったりしているので友好的関係を継続できるように職員が調整役となっている。	○	行動障害の強い利用者に関わるトラブルを少なくして、よりよい人間関係の樹立に繋げていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した利用者家族に会ったらその後の様子を聞いたり相談にのったりしている。また退所した利用者とはがきのやりとりをしたりまつりの案内状を配っていくなどして、利用中にできた縁を大切にしている。	○	サービス提供期間だけに限らず人としての信頼関係をこれからも大切にしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の介護の中から利用者が何をしたいのか、どのように暮らしてみたいのかという気持ちをくみ取っていくようにしている。	○	家族を通して利用者の生活への意向を聞いたり、利用者との会話の中から希望を聞き出していき、職員が利用者の立場であればどう考えるかという視点で介護していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、利用者の生活歴を本人や家族から聞いている。	○	利用者から今までの生活の話を聞いて、その生活経験を生かして現在の生活にプラスにしていただけるような介護をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の生活ぶりから生活リズムをつかみその人の生活力を把握するようにしている。暮らしの中でできるようになったことや発見は全職員が情報を共有し、次へのステップとしている。	○	マイナス面で考えず、何ができるかという視点で考えていくようにする。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく生活できるようにまた家族の希望も勘案しながら職員全員の意見交換のもと、介護計画を立案している。	○	職員相互の意見交換の場をもっととっていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の変化、食事の形態や服薬の変更など利用者の生活に関した変更事項が起きた時、介護計画の見直しをおこない検討している。	○	介護状態の細かな変化にも対応した計画の立案を図っていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙に１日の生活を記録し、毎日、時間にそって介護状況を把握できるようにしている。特に介護計画にそってどのような対応をしたか、それに対してどうだったか、排泄食事睡眠入浴整容水分摂取などについても細部にわたって記録しており、誰が見てもわかるような様式になっている	○	毎日の業務についてもの、なぜ、どうして、というような介護を見直す視点を常にもつようにしていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在開所２年目で、介護予防と、認知症対応型共同生活介護の事業を行っており、まだショートステイは受け入れていない状態である。	○	２年後ショートステイを受け入れ可能となったら、在宅者の介護負担を軽減するため受け入れていきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署と連携して避難訓練をおこなったり、運営推進委員を兼ねた民生委員や地区婦人会長や老人会長に定期的に来て頂いて意見を聞く機会を設けている。	○	生徒や園児との交流をすすめたり、地域の施設（図書館など）を訪れたりして施設外の方や地域資源の活用を検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の希望を聞きながら、シルバー人材センター利用の相談に応じている。また近所の理美容院が月１回来てくれるので、希望者は利用しているが、他の美容院希望の方は可能な限り送迎している。	○	介護保険以外のサービスについて常に地域の情報を得ておく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業を利用している利用者がいるため、毎月担当職員と会って連携を図ったり、運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、また併設のデイサービスに包括支援センター職員がよく訪問しているため常に会って情報の共有を図るなど協力関係を築いている。	○	地域の状況をよく知っている包括支援センター職員との連携をもっと密にとっていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医にみてもらっている。受診の際は家族と職員が相談し、協力して行っている。家族の事情によって職員が通院介助したり、往診してもらったりしている。	○	夜間は救急車での対応となるが、かかりつけ医に問い合わせができるように協力体制をつくっていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状について内科医であるかかりつけ医や協力医に相談したり、家族と協力して精神科への受診付き添いをしたりして、適切な医療を受けることができるように支援している。	○	受診時だけでなく電話などによる問い合わせもできるように常に親密な連携をとっていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	以前から利用者をよく知っている併設施設のデイサービスの看護職員のアドバイスをもらいながら健康管理を行っている。	○	看護職員を配置し、医療面での強化を図りたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院に付き添い情報提供してスムーズな生活がおくれるように連携を図っており、入院中もできるだけ病院へ見舞いにいったり家族に状態を聞いたりしている。また退院を控えて事前に医師と連絡をとりあってケアについての相談をしている。	○	入院中の担当医師と退院後のかかりつけ医師との連携について、紹介状をもらうなど仲立ちとなって利用者にとって必要な医療がスムーズに提供できるようにはたらきかけていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、家族に重度化したときの対応について話を聞くようにしている。状態が変わり、かかりつけ医から状態について説明があるたびに家族へ報告し、今後のケアについて利用者をまじえて相談しながらすすめている。	○	終末期介護についての話は家族も避けてしまいがちであるが元気な頃よりきちんと話す機会をもっておくようにしたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した時医師や職員が医療やサービスについて連携をとりながら施設でできること、できないことを家族に話し、できるだけ利用者が安心し生活できるようにしている。	○	終末期の方がいないが今後そのような方がでた場合医師、職員、家族がよく話合いながら、利用者のためにできることをしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の混乱が少なくなるように、家族や移り住む場所のスタッフへ、情報提供を行っている。また事前に見学に行くなど暮らしの継続が図れるように支援している。	○	緊急入所以外は入所前にゆっくり時間をとり話し合い、生活上の支障を最小限に抑えるように配慮していきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人のプライバシーを守った介護をすることや人権を尊重した介護をすすめる事を常に職員研修の場で話しており、記録の扱いや保存についても配慮している。	○	退職後においても守秘義務を守るように徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の介護の中から、利用者の感情をくみ取ったり、自分の気持ちを出せるように声かけしたりしている。繰り返し話したり、わかりやすく説明したりして自分の生活について自己決定できる事柄を増やしていけるようにしている。	○	意志表示の少ない人に対していろいろなコミュニケーションの取り方を工夫してもっと理解できるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが個々の生活のリズムや体調にできるだけそった支護をしている。個々の通院や外出希望、趣味活動などにできるだけあわせて対応している。	○	これからも趣味の仲間が増えて活動の範囲が広がるように活動の仲立ちとなったり見守ったりしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類交換の際、本人の希望する衣服を選んでもらったり、外出の時おしゃれに気を配るように声かけしている。また月１回理美容院からの訪問サービスを利用する時、自分の気に入りの髪型にしてもらったり、好きな色の毛染めをしてもらったりしている。行きつけの美容院を利用する際も連携をしている	○	これからも着替えやすいパジャマや機能的な衣類などを購入して頂けるように家族に働きかけていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物の希望を聞き献立に反映させるようにしている。寿司作りの得意な利用者には酢加減をみてもらったり、準備から関わってもらったりしてできるだけ利用者主体で生活がながれるように配慮している。畑の作物を職員と一緒に収穫したり、食への関わりをもって楽しく食事ができるようにしている。	○	嚥下困難な利用者は食事形態が限られるため、好みに応じたソフト食で対応したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出の際や行事のときにはお酒を飲んだり、嗜好品の買い物には個々に対応している。	○	たばこを吸う利用者が居ないが入所されたら喫煙場所などルールを相談しながら対応していきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の間隔を個々に把握しておき、排泄を記録して、個々に合わせた方法で誘導介助している。できるだけオムツにしないで、ぬれた時間が少なく、快適にすごせるように支援している。	○	排泄の自立にむけ、あらゆる意見を職員で検討して実施していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後入浴しており、個々の希望や体調によって実施している。	○	夜間に入浴を希望の方については柔軟に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調によって臥床時間を検討し休息の取り方をかえたり、午後に活動してもらい適度の運動量を確保して、夜間の入眠を自然に促すようにしている。また音楽を聴いたり語らいのなかで安定した精神状態をつくり、リラックスした時をすごしてもらっている。	○	眠剤や安定剤は必要最小限度の使用としていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの経験や日常の活動の中から利用者一人一人に無理なく出来ることを見つけ、洗濯たたみや下膳などを依頼し、自分の役割として意識づけ毎日が意義ある生活となるように支援している。	○	今の役割から、利用者の生活の幅を広げて発展していけるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額入った財布をもっている人は買い物の都度お金の支払いを職員と一緒に確認し合いながらおこなっている。お金を所持していない人に対しては個々の状態により外出時職員が手渡してあげるなどして、金銭管理の支援をしている。	○	お金をもつことで安心感や満足感をもつので、失うなどリスク面だけをみずに、支払いができる人に対してはこれからも支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花を見たり食事に行ったり、近くへドライブに出かけたりして外出の時間を楽しんでいる。通院や自宅訪問など個々の希望によって外出支援をしている。	○	外出の際のボランティアや家族の付き添い支援を得て、もっと外出の機会が増えるように働きかけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望によって行きたい所を聞いて職員が付き添い出来るように介護の計画にいれるようにしている。遠くへの外出は家族が対応していることが多い。	○	旅行など希望している利用者がいたら、家族が来所した時に話をして、実現にむけて協力していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる人にはそばで見守りをし、かけられない人にはかけてあげて、本人につないで話ができるように援助している。また難聴の人には伝言をしている。手紙は投函してあげたり、はがきや切手を買ってきたりしている。	○	利用者の身体状況に適した連絡の手段をすすめ、家族や知人との変わらぬ交流を継続できるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人や家族が訪問したときはプライバシーに配慮して自室にてゆっくり過ごせるようにし、お茶などを出して次回も気やすく訪ねて気やすい雰囲気で共に歓迎し、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	○	いつも笑顔で来客をむかえるように心がけたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同が、どれが身体拘束にあたる行為かを共通認識を持って利用者介護をしている。	○	身体拘束についての職員研修をおこない、徹底を図りたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の帰宅願望が現れる時間帯をつかみ、不穏行為が現れる前にできるだけ気をそらせるようにしている。それでも興奮したときは電話で家族と話をしてもらったり職員が付きそって気が落ち着くまで外出してもらっている。夜間以外は施錠せずに閉塞感をもたせない自由な明るい施設運営を心がけている。	○	地域の人たちの声かけや協力を要請しておく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜にわたり利用者の近くにいて、物音にも気を配り、利用者が安全に生活できるように見守りを行うとともに、プライバシーを配慮したケアを実践している。	○	常に行動パターンを予知して危険から回避できるように状態観察をしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	身近な生活物品の中にも危険物は多いため使用後は、流しの開き戸の中等、すぐに見えない場所に収納するなど認知症高齢者の行動パターンを考慮した位置に置いている。また消毒薬等危険物は施錠して数を確認するようにしている。	○	危険物の保管状況は状況に応じて変更し、その取り扱いについて職員の周知徹底が図れるようにしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリはっと報告により事故防止委員会を開き職員全員にて危険場所のチェックおよび危険防止の対応策について検討し、実践している。一人一人の行動から予想できる危険は未然に防ぐように努めている。	○	ヒヤリハット報告の内容や対応策について、常に職員全員が共通認識で対応できるようにしたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルをもとに直ちに行動できるように常に職員に周知している。	○	研修をしていてもその場になると、充分機能しないことがあるので繰り返し研修していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署にも参加してもらい、全入所者を対象にした避難訓練を行っている（年２回）。また職員は初期消火活動ができるように訓練している。	○	夜間夜勤者のみの対応であるため災害時職員連絡網による自衛組織の強化を図り、また関係団体への連絡が速やかにとれるように連携を図っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時また体調の変化が生じた時、施設で起こりえるリスク（転倒など）について事前に家族に説明し話し合って、介護方法についての理解と納得を得ている。そして職員間では見守り体制の申し合わせ等をしている。	○	家族の希望であっても利用者本位のものでない場合は家族との話し合いをもつなど利用者の立場にたって考えていきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の病歴や普段のバイタルをよく把握しておき、異常が起きたとき速やかに発見し、早期受診できるように心がけている。血圧が高い人は１日３回測定し、特に入浴前には細かな状態観察を行っている。	○	訴えやバイタル、様子観察から普段と違う事にすぐ気づける職員となるよう資質の向上に努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の個々の状態に応じて服薬介助しており、人によっては飲み込んだところまで確認している。職員が一日の内服薬を食毎に容器に分けておき、確実に服薬管理できるようにしている。また症状の変化に合った内服が出来るように様子観察及びかかりつけ医との連携を図っている。	○	個々の薬の副作用についても知識をもって対応できるようになりたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食事を摂取できるように献立を考えるとともに、排便表にて、間隔をチェックして、個人の体調や周期に合わせて定期的に下剤を服用介助している。また自然排便を促すように適度な運動や散歩をすすめている。	○	下剤だけに頼ることがないようにし、水分摂取等のチェックも常に行い、個々の生活様式の見直しもしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕食後には職員がついて歯磨き介助しており、またポリデント消毒を実施している。定期的に歯科衛生士が歯牙や歯磨き状況をみて口腔衛生について指導している。肺炎予防に効果があることを伝え、意識をもって頂くようにしている。	○	清潔保持意識のもてない利用者への対応を検討していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人介護記録に一日の水分及び食事摂取量を記録してチェックし、個々の健康管理に役立てている。また献立は関連施設の栄養士が立案したものを活用し、栄養価やバランス水分量についても留意し、きざみ食など形態についても配慮し摂取しやすくしている。	○	水分摂取量の少ない利用者には常にお茶が飲めるようにしておき、水分摂取の機会を増やしているが、のどの乾きに気づかない方や好き嫌いの多い方の栄養摂取についても検討していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアル等を作成し、職員研修を行い知識習得に努めている。発生しやすい時期には予防対策を行い、来所者についてもその予防について理解を求め、手指消毒をすすめている。	○	菌の持ち込みを阻止できるようにこまめな消毒及び清掃に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎朝調理直前に配達してもらいできるだけ残さないようにしている。冷蔵庫内の整理及び台所の調理器具の消毒殺菌処理など食中毒をださないように衛生管理を行っている。	○	盛りつけの際の手袋使用、食器の熱処理など配慮しているが衛生面でなお徹底を図りたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地入り口は広く開放してあり、玄関口は家庭的な雰囲気で親しみのわくように、入所者と共に季節の花を育てて飾っている。	○	いつも玄関は開放してあり、訪れやすい環境にしているが老人ホームとしての施設イメージがあり、また入院見舞い的感覚を持って来所する方がいるので生活施設としての意識づけを地域の方に働きかけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手洗い場に観葉植物を置いたり、リビングのコーナーには観賞用水槽を設置し毎朝金魚にえさやりをしたり、ながめられるようにしている。みんなで憩う場には天井からの自然な採光と床暖房や空調設備を施し快適に過ごせるようにしている。	○	共用の場であるが個々が安心して過ごせる場であることを念頭におき機能的で楽しい環境整備をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーには応接セットを置き、訪問者と面会をしたり、将棋をしたり、気の合う人との語らいの場となっている。また花好きの利用者の居室前のベランダには花のプランターを置き水やりをしていて、その成長をみんなで楽しみに見ている。	○	集うコーナーをもっと設定して居場所を多くしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時、孫の写真やいつもしていた手芸用品をもってきたり、使い慣れたタンスを配置して落ち着いてすごせるような環境を、家族と相談しながら作っている。その物にまつわる逸話などあればきいておき、飾ってあげたり、声かけの話題にしている。	○	自宅の環境に類似した落ち着ける環境設定を行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃時窓を開放し換気を行い、空調のフィルターはこまめに清掃して埃のない清潔な空間作りを心がけている。またトイレの臭気には特に注意し不快な思いをさせないようにこまめに清掃換気している。冷房は効き過ぎに注意している。	○	冷暖房に付いて、温度及び湿度調整をこまめに行い体調にも配慮していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーになっており、壁面には手すりが設置されていて下肢筋力が低下し転倒の危険性の高い入所者の歩行のささえとなっている。また玄関内には作りつけベンチがあり、靴の履きかえ時や休憩時活用できるようになっている。	○	下肢筋力低下の見られる利用者が多いため日常生活を通して機能回復を図っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認識の状態によって、誘導するトイレや手洗いの使用方法等の説明を行い、また時計を見える所に置き時間を説明するなど、できるだけ自分で混乱せず生活できるように配慮している。	○	目印をつくるなど工夫した取り組みをチームですすめ、日常生活に慣れて頂き生活上の支障をできるだけ軽減させていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の畑では好きな野菜や花作りをしている。庭にはベンチを置き、敷地内散策の際に休憩できるようにしており、建物周辺もゆっくり散歩を楽しめるコースとなっている。建物横の川には水鳥がいるので毎日居室の窓やベランダに出て見ている。また内庭の芝生ではグランドゴルフを楽しめるようになっている。	○	開設２年目であり、これからも徐々に敷地内環境を整えていきたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○　①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○　①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○　①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○　①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者が安心して生活できるように職員一同「ぬくもり介護」をモットーにしており、屋内外はバリアフリーの環境設定にし、清潔で快適な生活が送れるように、自動水洗や床暖房などの設備も設けている。